

2025年1月 第15号

# みらいく木育レター

みらいくの木育テーマ

「自然と遊びながら 自然から学び 自然と共に心と体が育つ」



## 季節を感じる影

### 冬の自然観察

2025.1.18

葛飾区水元公園

思わず拾いたくなる  
モミジバフウの実



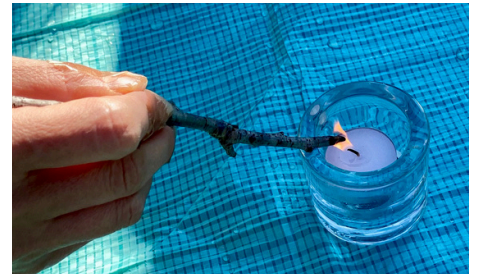
長く伸びた影を見ると、冬だなーと感ずるのは50年以上生きてきてしみついていることなのだろうけど、ちゃんと根拠はある。冬は夏よりも太陽の通過する高度が低いから影が長くなる。そして1年で一番影が長くなるのが冬至。と言うことはそこからまた段々短くなっていくということだ。何はともあれ、葉が落ちて真っすぐな幹がストライプに伸びている影が落ち葉のじゅうたんに映し出されて、空は青くて、空気は澄み切っていてなんて気持ちが良いのだろう。影がないとできない影鬼。ここで子どもたちとやりたいなあ。

今回は葛西区にある水元公園で参加した保育ナチュラルリスト実践講座での様子をいくつか紹介します。公園内をゆっくり観察しながら歩いていると様々な実（種）を見つけました。落ちているものもあれば、ふわふわ飛んでいるもの、飛んで別の木や葉についているものも見えました。1本の木の種がどこまで飛んでいるか見つけながら歩くのも楽しかったですよ。小さな赤ちゃんたち、どこで芽を出すのかな。



# 冬の戸外で” 温かい” と” 冷たい” を感じる

まずは分かりやすく氷で”冷たい”を感じる。木の実を入れた氷はお日様に透かすとキラキラしてきれいだし、ビニールシートの上を滑ってカーリング遊びみたいで楽しい。触ったり転がしたり翳したりして遊んだ後は好きな場所に飾ってみる。場所によって解ける速度が違う。変化を見るのも楽しいし。自然物だから溶けて落ちてても問題ないのがいい。



次にろうそくの火に手を翳してみよう。こんな小さな火でも温かさが伝わってくる。枝の先をちょっと焦がして絵を描いてみたり。

冷たいと温かいがわかったら、自由に色々なものを触ってみよう。大きな石、上部と側面では温度が違う。



## 冬の間、虫たちはどこにいる？

←公園や森にあるこんな木の名札の裏を、そーそーっと見てみると、色々な虫が体を寄せ合ってる！私は虫が好きなのではないけど、寒い寒い冬をこうやって越しているんだなあと思うとちょっと愛おしい気持ちも湧いてくる。この時期は体の機能が停止しているので間違えて地面に落ちてしまったら、元居た場所に戻ってくることはできないんだって。「だからそーとね」と講師の村松さんが手を添えて教えてくれた。枯葉の下や土の中、水の中。どこか温かくて天敵に見つからない場所、栄養が補給できる場所、色々考えて、いないようだけど冬でも虫はいるんだね。→



ムクロジの実



「さざんか さざんか 咲いた道 焚き火だ 焚き火だ 落ち葉焚き」さざんかの花の中を覗き込んで見ると、つやつやに輝く大きな水滴が見える。ねっとりとした粘度が高く、とっても甘い蜜！（舐めました）鳥が大好きらしい。これを吸おうと頭を突っ込んだら花粉だらけになるだろうな。鳥に花粉を運んでもらうのがさざんかのやり方。メジロやヒヨドリが蜜を吸っているのを観察したい。

私がガマを見て思い出すのは”因幡の白兎”。何故って、幼稚園教諭時代にお遊戯会の演目に使ったことがあるから！このガマの穂を手で潰すと爆発したように勢いよく白い綿毛が飛び出して、まるで手品のようにものすごい量が溢れてくる。これを兎の体につけたということか。初めて理解したのは内緒。

